

エステル

シリーズ～旧約聖書入門～

2012/10/28

エステル記

- ▶ 女性が主人公の数少ない書物のうちの一つ(ルツ記)
- ▶ 帰還期,捕囚地ペルシアでの出来事
 - クセルクセス王(前486—465年在位)の時代(1:1)
 - 最初の帰還(538年)神殿完成(516年)◆エズラの帰還(458年)
 - パレスチナに帰還せず,ペルシアに残っていた人の話
- ▶ エステルはモルデカイの養女として育った(2:5-7)
 - 「要塞の町スサに一人のユダヤ人がいた。名をモルデカイといい、キシュ、シムイ、ヤイルと続くベニヤミン族の家系に属していた。この人は、バビロン王ネブカドネツアルによって、ユダ王エコンヤ(ヨヤキン)と共にエルサレムから連れて来られた捕囚民の中にいた。モルデカイは、ハダサに両親がいないので、その後見人となっていた。彼女がエステルで、モルデカイにはいところに当たる。娘は姿も顔立ちも美しかった。両親を亡くしたので、モルデカイは彼女を自分の娘として引き取っていた。」

エステル,王妃となる

- ▶ 王妃ワシュティ,出入り禁止となる
 - クセルクセス王の酒宴の席に呼び出されたが,拒絶した
 - 立腹した王は,賢者と相談の上,ワシュティを出入り禁止とした
 - ・ 妻たちが夫を軽蔑するようにならないために
- ▶ 見目麗しき王妃候補が国中から集められた
 - エステルもその中の一人であった
 - エステルは後宮の監督に気に入られ,目をかけられた
- ▶ クセルクセス王はエステルを気に入り,王妃とした
 - 「王はどの女にもましてエステルを愛し、エステルは娘たちの中で王の厚意と愛に最も恵まれることとなった。王は彼女の頭に王妃の冠を置き、ワシュティに代わる王妃とした。」2:17
 - エステルは,自分の出自(ユダヤ人であること)を,モルデカイの言いつけにより明かさなかった

ユダヤ人の危機

▶ モルデカイのお手柄 2:21～23

- モルデカイは王の私室の番人二人が王の暗殺を謀っていることを知り、エステルに知らせた
- エステルはモルデカイの名でこのことを王に伝えたので、この謀略は明るみに出、二人は処刑された

▶ ハマンの策略 3章

- クセルクセス王に重んじられたハマンは、モルデカイだけが自分にひざまづかないことに腹を立てた
- モルデカイがユダヤ人だと知っていたハマンは、彼だけではなく、ユダヤ人全体を滅ぼそうとたくらんだ
- 「彼らはどの民族のものとも異なる独自の法律を有し、王の法律には従いません。もし御意にかないますなら、彼らの根絶を旨とする勅書を作りましょう。わたしは銀貨一万キカルを官吏たちに支払い、国庫に納めるようにいたします。」3:8～9

エステルに伝えられた悲報

- ▶ ユダヤ人根絶の勅書が発布され、ユダヤ人たちは嘆き、悲嘆にくれた
 - モルデカイも粗布をまとして叫び、王宮の門まで来た
- ▶ 後宮の役人を通して、ユダヤ人が絶滅の危機にあることがエステルに伝えられた
 - 「彼女自身が王のもとに行って、自分の民族のために寛大な処置を求め、嘆願するように伝言させた。」4:8
- ▶ エステルは、王妃であろうと王の召しが無ければ王に近づくことはできない、と伝えた
 - 「王宮の内庭におられる王に、召し出されずに近づく者は、男であれ女であれ死刑に処せられる、と法律の一条に定められております。ただ、王が金の笏を差し伸べられる場合にのみ、その者は死を免れます。」 4:11

エステルの出番

- ▶ しかしモルデカイは、今こそエステルの出番だ、と伝えた
 - 「この時にあたってあなたが口を閉ざしているなら、ユダヤ人の解放と救済は他のところから起こり、あなた自身と父の家は滅ぼされるにちがいない。この時のためにこそ、あなたは王妃の位にまで達したのではないか。」4:14
- ▶ エステルは覚悟を決め、他のユダヤ人に祈ってくれるよう頼んだ
 - 「早速、スサにいるすべてのユダヤ人を集め、私のために三日三晩断食し、飲食を一切断ってください。私も女官たちと共に、同じように断食いたします。このようにしてから、定めに反することではありますが、私は王のもとに参ります。**このために死ななければならないのでしたら、死ぬ覚悟でおります。**」4:16

酒宴に現れたハマン 5章

- ▶ 決死の覚悟で王の前にでたエステルを、王は喜んで受け入れ、エステルは発言を許された
 - 「王は庭に立っている王妃エステルを見て、満悦の面持ちで、手にした金の笏を差し伸べた。エステルは近づいてその笏の先に触れた。」5:2
 - エステルは王に、ハマンと一緒に酒宴に来てくれるよう頼んだ
- ▶ エステルはその日の酒宴の場では願いを言わず、翌日もう一度来てくれるよう頼んだ
- ▶ 酒宴の帰り道、王宮の門で自分を無視するモルデカイを見たハマンは激怒し、彼をつるす柱を立てさせた
 - 「だが、王宮の門に座っているユダヤ人モルデカイを見るたびに、そのすべてがわたしにはむなしいものとなる。」5:13

ユダヤ人の解放

▶ 王,モルデカイに栄誉を与える 6章

- 酒宴の番に,寝つかれなかった王が宮廷日誌を読んでいると,かつて私室の番人の陰謀をモルデカイが知らせたことを知り,どうすべきか,ちょうど王宮に来たハマンに尋ねた
- ハマンはその対象は自分だと誤解し,最高の栄誉を与えるよう進言した。王は,ハマンに,モルデカイにそのようにするよう命じた

▶ ハマンの失脚 7章

- 二日目の酒宴の席で,ハマンが自分と自分の民族の絶滅を謀っている,と伝ええると,王は怒り,ハマンが立てた柱に彼をつるさせた

▶ エステル,2度目の直訴 8章

- エステルは,王の名前で出されていたユダヤ人根絶の勅書を撤回するよう王に願い,かなえられた

神の計画と見えざる御手

- ▶ エステル記には「神」「主」など、神様を示す言葉が1度も出てこない！
 - 著者はペルシアにいたため、神の名を使うことができなかった？
- ▶ しかし、この出来事の背後には、**主なる神の計画と見えざる御手の働き**が確かにある
- ▶ その計画の中で、私たちに課せられている役割を、時には「命がけで」果たさなければならない
 - 「私は王のもとに参ります。このために死ななければならないのでしたら、死ぬ覚悟しております。」4:16

神の計画見えざる御手

捕囚地に生まれ
育った美しい娘、
エステル

王妃の失脚

王の役人の謀
略を知った
モルデカイ

王妃に選ばれた
エステル

差し伸べられた
金の笏

眠れず、宮廷日
誌を読んだ王

王の栄誉を受け
たモルデカイ

取り消されたユ
ダヤ人絶滅の
勅書

異国でのユダヤ
人の保護